

毎週木曜日の朝 8 時 15 分。2 年生全員が職員室にやってくる。「かけ算九九」を聞いてもらうためである。教頭先生，康直先生，貴裕先生はじめ，職員室にいる先生方が待ち構えている。私も朝の交通指導から急いで戻ってくると，校長室にもすでに列ができています。子供たちの「かけ算九九カード」には，おうちの方が聞いてくれたサインやシールがいっぱいになってきた。12 月ころは「2 の段・5 の段」を唱えるのが精一杯だった子供たちも，「7 の段の下り九九お願いします。」「8 の段のバラ九九お願いします。」とレベルも上がり，だいぶスラスラ唱えることができるようになっている。

「う～ん　すごい！校長先生より早く言えるね。」
と言うと嬉しそうに笑う子供たちから朝の元気ももらっている。

低学年は「伸び伸びと元気」に，中学年は「自分らしく自由」に，高学年になって「自分に厳しく，学ぶこと」が長瀬小の育て方である。低・中学年では，力一杯遊んだり，友達と関わったり（時にはケンカも必要）する中で，大いに発散して，学校が楽しいと感じて欲しい。しかし，高学年では学習に徐々に負荷を強くしていく。（実際，4 年生後半からの家庭学習量はグンと増えている）これに耐えられるようにするには，低・中学年で「伸び切ったゴム」や「縮んで固くなったゴム」にしてはならない。

「学ぶ意欲・喜び」「学びへの期待」を保って高学年につなげることが，大切だと考えている。

ただし，低・中学年で「何が何でも身に付けなければならない基礎」は徹底する。2 年生においてはもちろん「かけ算九九」である。